

【ねがいましては】

第115号

平成11年5月25日

KYOWA SCHOOL

「点数」

にんげんはねえ 人から点数を つけられるために
この世に生まれて きたのではないんだよ
にんげんがさき 点数は後 みつを (育てたように子は育つ) 小学館 より

久しぶりに先日、神田の三省堂へ行ってきました。そこで相田さんの新しい本を見つけました。この詩は、その中からのものです。

たしかに、点数は数字でできています。数字→点数と言うようにすぐ結びついてしまう子も多いのではないかと思います。これも家庭の中の環境や、学校でのテストからくる、ごくごく自然な環境の時間の流れがそうさせているのかもしれません。

100点、と聞くと、はじめてテストをもらった子にとっては、何なの?と言う数字だと思います。少しして、あっそうか、100点ってみんな合うことなんだ。と学習するわけです。

家庭で、いつもいつもテストの点数のお話ばかり出でていれば、自然と100点のことばかり気にするようになるでしょうし、学校で、クラスで、100点のことがたくさん出でてくれば、やはり100ばかり気になってしまふと思うのです。

最近、わたくしの教室では、気がついたらなるべく言うようにしているのですが、暗算の練習の時、2けた一緒に計算するように促しています。以前ですと、ひとけたづつ計算させていたのですが、チャレンジ精神と、だめでもともと、0点取りましょうで、どんどん促しております。何事にもおつかなびっくりの取り組み方では、弱気弱気で子供らしくないと思うようになりました。

元気いっぱい「0点」をとろうやないか、という気持ちを伝えたくて、……

「まちがいはいいこと、まちがいはわかるもと」という今は亡き、一私塾の八杉晴美先生の言葉が好きなので、・・・ 何冊もの本を書かれている方なのですが、私は八杉先生の、「人の心」を一番に考えておられる姿に、今でもずっと・・・ その通りです。と、何ら気持ちちは変わりません。

人間、点数なんかで決められてたまりますか。なんてったって、気持ち、心、ですよね。

きょうも、にこにこして通ってくれる子供達のおかげで、私もにこにこすることができました。

相田さんや、八杉さん、灰谷さん、瀬戸内さん、諸先輩達に助けられ、一番助けてくれるのが、子供達です。そんなお子さん達をわたくしの教室にお送りいただいて、お母さん、お父さん、ありがとうございます。

結局、みなさん全員に、「ありがとうございます」。きょうも元気に、みんなの生き生きした表情を楽しみに、机に座って教材作りにいそしんでいます。

6月の予定

5月27日(木)~30日(日) 全珠連検定試験 詳しくは、個別にお知らせいたします

6月 7日(月) 検定試験合格発表

* 毎年恒例のキャンプのお知らせがあります。 別プリントでお知らせいたします。

* 毎日毎日、こつこつと 「クイズマン」のソフトを作っています。 出来上がり次第楽しんでください。これがみんなにとって、楽しみながら学力のつくものになるよう確信しています。

みなさんの力を借りすることと思います。よろしくお願ひします。